

プログラミング基礎B Java (担当：宮川) 評価基準

※上位レベルは下位レベルを含むものとする

達成目標	C	B	A	S
(1)Javaプログラミングの基本的な開発手順を実施できる 10%	教員の具体的な指示に従い、サンプルコードの打ち込み・コンパイル・実行の手順を行うことができる。	資料を参考としながら、ソースファイルの作成/修正・コンパイル・実行の手順を行うことができる。	練習や課題のプログラムについて、何も参照することなく、ソースファイルの作成/修正・コンパイル・実行の手順を行うことができる。各工程によって生成されるファイルやフォルダ構成を把握している。	JDKに加え、統合開発環境Eclipseを活用した開発を行うことができる
(2)基本的なデータ構造（基本データ型・文字列型・配列）を宣言・利用できる 20%	数値リテラル・文字列リテラルをプログラム要素として表現できる	格納するデータに応じた適切なデータ型の変数を宣言できる。final修飾子を適切に活用できる。各変数の初期化・代入を行うことができる。	配列構造（1次元）の宣言や初期化、各要素の利用（参照・代入）を行うことができる。文字列型の特徴を理解して活用できる。	何も参照せずに、基本データ型・文字列型・配列（多次元配列を含む）の宣言と利用ができる。各データ型の変換（演算・代入時）の挙動を理解している。
(3)基本的なコンソールプログラムの処理要素（キーボード入力・乱数生成・計算・画面出力等）を記述できる 20%	コンソール画面に文字列や初等的な計算結果を表示できる	リテラルや各変数に格納されたデータをもとに、簡単な四則演算やその他計算を特定変数に格納（もしくはそのまま画面出力）することができる	キーボードからのデータ入力（変数への格納）と、指定範囲の乱数生成を行うことができる	以下の全要素を何も参照せずにプログラムとして記述できる： ・キーボードからの入力 ・指定範囲の乱数生成 ・四則演算やその他の計算 ・計算結果の画面出力
(4)処理の流れの制御（条件分岐と繰り返し）を記述できる 30%	比較演算子を用いることができる。if構文による2分岐、もしくは、同じ処理の指定回数反復を表現できる	論理演算子を用いることができる。If構文による2分岐及び同じ処理の指定回数反復を表現できる	多分岐（if構文の入れ子、switch構文など）や、パターン変化する処理の表現、配列全要素への参照等を表現できる。	状況に応じて適切な制御構文（拡張for構文を含む）を選択し、活用することができる。
(5)基本的なメソッドを宣言・定義し、利用できる 10%	例題のメソッドを呼び出すことができる	引数・戻り値のないメソッドを宣言・定義し、呼び出すことができる	引数・戻り値のあるメソッドを宣言・定義し、呼び出すことができる。仕様に基づいた処理を行うメソッドの定義を記述できる。	配列引数や配列の戻り値のメソッドを宣言・定義し、呼び出すことができる
(6)基本的なクラスを宣言・定義し、利用できる 10%	Javaの基本的なプログラミング単位がクラスであることを理解し、プログラム中のクラス定義部分がどこか指摘できる	様々なデータ型のフィールド（インスタンスフィールド）を持つクラス定義を記述できる	様々なメソッド（インスタンスメソッド）を持つクラス定義を記述できる	クラスのインスタンスを生成し、そのフィールドやメソッドを利用することができる